



FACTSHEET

2014

グローバル漁業プログラム

カツオ保存管理措置 (CMM TRP SKJ) 仮訳

漁業管理の成功を目指して

中西部太平洋 (WCPO) におけるカツオのTRPに関する保存管理措置 (CMM) を支持することの正当性

目標管理基準点=TRPとはなにか？

TRPとは、漁獲死亡率、収量または資源生物量などの定量的な漁業指標のひとつ（または少数）によって定義され、漁業の現在の状況が望ましいものかを判断するために用いられるものです。

TRPは生物学的、生態学的、社会的そして経済的な検討項目を含んでいます。そして決して限界管理基準点 (LRP) より低くならないし、また不確実性を考慮した安全幅 (バッファ) を持たせるために、LRPより十分に高い値であるべきです。

TRPは定量的な漁業指標のパーセントで表されることがあります。例えば、期間 $t_1 \sim t_2$ の間、漁獲死亡率がゼロ ($F=0$) である時の、最近の産卵親魚量の推定平均値の50% (0.50) と提案されたとする



→ $0.50SSB_{F=0, t_1-t_2}$ となる

目標管理基準点を用いる理由



過去10年間にわたり漁獲量の上限や削減量を定めたにもかかわらず、まき網の漁獲努力量とカツオの漁獲死亡率は増加し、カツオのバイオマスは減少してきました。これにより、これまでの対策は効果的ではなく、追加の対策が必須なのは明らかです。

TRPの採択は、成功を判断するための基準ラインを設けることで、中西部太平洋のカツオ資源の健全さと持続可能性、すなわちこれらに依存する商業漁業と小規模漁業を維持する上で、重要なステップとすることができます。

提案されたCMM TRP SKJのキーポイント

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC) は、中西部太平洋域のカツオについて、漁獲死亡率ゼロの際の最近の産卵親魚量の推定平均値のX%というTRP ($X\%SSB_{F=0, t_1-t_2}$) を採用しています。ここでいう期間 t_1-t_2 は、直近のアセスメントまでの10年間を指します。

CMM TRP SKJの提案のひとつを支持すべき10の理由

ナウル協定加盟国連合（PNA）と日本から、WCPFC第11回会合にむけて2つの提案が提出されました。両提案とも合理性があります。

1. 両提案とも国連公海漁業実施協定（UN Fish Stock Agreement）と、全てのメンバーが署名したWCPFC協定と一致する
2. 両提案とも太平洋共同体（SPC）によって徹底的に調査されてきた
3. 両提案とも海洋管理協議会（MSC）認証の特定の条件に達している
4. 両提案とも多くのWCPFC加盟国に必要な不可欠である重要な資源のためであり、保守的かつ、予防的に信頼にあたっている
5. 両提案とも最大持続生産量（MSY）を維持するために必要な2倍以上のTRPとなっており、資源の持続可能性を確実に担保している
6. 両提案は、ほぼ既存のあるいはわずかに改善した漁獲率もしくは漁獲サイズ分布により、漁業の経済条件の現状維持もしくはわずかながらの改善を目的としている
7. 両提案とも、実効的な漁獲戦略（Harvest Strategy）の必須要素であり、他のマグロ類漁業における漁獲戦略を実行するためにすべきことを補完する
8. 両提案とも中西部太平洋のまき網漁業の漁獲可能努力量（Total Allowable Effort: TAE）の上限設定に関する作業の基礎を形成しうる
9. 両提案ともカツオを対象とする漁業、特にまき網漁が影響を与える他の資源への影響を避けるための重要な手順を含んでいる
10. 両提案とも、まき網全体の努力量を近年の水準に抑え、FADの使用を減らすことなどによりメバチの乱獲を防ぐWCPFCの現在の戦略と完全に一致している



注意：目標管理基準点を単独で設定しても目標を達成するとは限りません。徹底したモニタリング、規制、監視のシステムは、管理手法を実行し法令順守を保証するためだけではなく、十分な情報を収集しそれが資源量評価に組み込まれるために、適切に実施されていなければなりません。資源量がTRPに対してどのレベルにあるかを示すための情報をもっていないければ、目標を達成しているかを知るすべはありません。

WWFグローバル漁業プログラムのビジョンとゴール

ビジョン：世界の海が、健やかで十分に管理されかつ生命に溢れ、人々の暮らしが豊かになるよう、価値ある水産資源を供給し続けられこと

ゴール：主要な4魚種（マグロ、サケ、白身魚、餌魚）の漁業において、責任ある管理と取引が確立されることで、命に満ちた海洋生態系が回復し、沿岸コミュニティの暮らしが改善し、また世界の食糧安全が確保されるようになること



私たちはWWFです

人と自然が調和して生きられる未来を目指して、地球規模の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。

wwf.or.jp

問い合わせ先

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWF ジャパン）
自然保護室 水産プロジェクトリーダー

山内 愛子

ayamauchi@wwf.or.jp

〒104-0015 東京都港区芝芝 3-1-14 日本生命赤羽橋ビル 6F
Tel: 03-3769-1713 Fax: 03-3769-1717